

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2671300206
法人名	社会福祉法人 弥勒会
事業所名	グループホーム いでの里
所在地	京都府綴喜郡井手町大字井出小字弥勒1番地の1 (電話) 0774-99-4357

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成20年3月7日
評価確定日	平成20年4月14日

【情報提供票より】(平成20年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9 人
常勤	6 人
非常勤	2 人
常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 3 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,460 円	

(4) 利用者の概要(2月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都伏見しみず病院、きづ川病院、黄檗病院、後藤田歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

人口8,000人の井手町は高齢化率24.7%で4人に1人が高齢者となる地域です。その中で、町と連携し、唯一の地域の総合福祉施設として地域に根ざしている母体を持つグループホームとなっています。里山や川など自然に囲まれ、四季折々を肌で感じる事が出来る中に立地しています。”自立した日常生活を続け、なじみの地域で、居宅生活を送れるように支援する”を理念とし、入居者にホームを”家”と思ってもらえる事をテーマに職員は何でも話し合いながら一丸となり、個別ケアを大切に一人ひとりに合った支援がなされ、入居者の穏やかさや笑顔につながっています。地域との関わりも積極的に行われており、母体法人と共に地域のサポーターとしての役割も担っています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題については、入居者の権利を書面で明示したり、ふれあい祭りへの参加など地域に根ざす事を積極的に取り組んだり、毎月家族へ便りを発行するなど、カンファレンスの方法についても見直され職員の意識向上にもつながっています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員で取り組まれ、評価の意義・目的を共有すると共に、目標も明確にされています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヵ月に1回実施される運営推進会議では、家族(代表)、社協、包括、老人会などが参加されています。ホームからの報告の他、地域全体で認知症の理解と協力について、意見が出され話し合い、実践されています。また、家族の中に福祉の専門家もおられ、アドバイスを受けサービスに活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに来られた際やケアプラン交付の際に、家族の意見を伺い、話し合う機会を持っています。また、定期的に家族が集まる行事も実施しています。要望等については、職員で検討し、家族にも納得して頂けるように話し合っています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町主催の文化祭では、入居者の作品を出展したり、ふれあい祭りでは、グループホームとケアハウスのコーラス部が合同で出演されています。地域の幼稚園から園児が毎月遊びに来たり、運動会やお遊戯会を観に行ったりしています。また、スーパーへ歩いて買物に行く中で、地域の方に挨拶をしたり、声を掛けてもらうなど地域に積極的に溶け込んでいます。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を基にグループホーム独自の”自立した日常生活を援助し、なじみの地域での居宅生活をめざす”という理念を職員で話し合い掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、入居者がホームを”家”と思ってもらえる事を念頭に置きながらケアに取り組まれており、会議、カンファレンスなどの話し合いの中でも理念を基に、個々にあった対応方法を検討し、実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町主催の文化祭では、入居者の作品を出展したり、ふれあい祭りでは、グループホームとケアハウスのコーラス部が共同で出演されている。地域の幼稚園から園児が毎月遊びに来たり、運動会やお遊戯会を親に行ったりしている。また、スーパーへ歩いて買物に行く中で、地域の方に挨拶をしたり、声を掛けてもらうなど地域に積極的に溶け込んでいる。	○	地域の方は、単独のグループホームではなく、弥勒会としてとらえている事もあり、自治会への入会が現在出来ていないため、今後は法人ぐるみで入会の検討もしていく予定である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題については、入居者の権利を書面で明示したり、ふれあい祭りへの参加など地域に根ざす事を積極的に取り組んだり、毎月家族へ便りを発行したり、カンファレンスの方法についても見直され職員の意識向上にもつながっている。今回の自己評価は全職員で取り組まれ、評価の意義・目的を共有すると共に、目標も明確にされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回実施される運営推進会議では、家族(代表)、社協、包括、老人会などの方が参加されている。ホームからの報告の他、地域全体で認知症の理解と協力について、意見が出され話し合い、実践されている。また、家族の中に福祉の専門家もおられ、アドバイスを受けサービスに活かしている。また、運営会議の報告は全家族に周知している。		

グループホームいでの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人設立の背景として町と密接に関わっており、町福祉課との連携が出来ている。ホームからも電話で相談したり、報告や相談を通じて密に関わっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームによく来られており、その際に日頃の暮らしぶりを伝えている。毎月個別のお便りも送付している。また、金銭管理は、毎月家族に確認してもらい、サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来られた際やケアプラン交付の際に、家族の意見を伺い、話し合う機会を持っている。また、定期的に家族が集まる行事も実施している。要望等については、職員で検討し、家族にも納得して頂けるように話し合っている。	○	家族アンケートの実施を通して、直接言いにくい家族の思い等を聞く機会の検討が期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない職員の異動はあるが、馴染みの職員でのケアを重視している。新人が配属されると、日勤体制を4名にして、ホームの雰囲気を知ってもらいながら、入居者と一緒に過ごす時間を多く持ってもらっている。また、職員アンケートを実施しており、管理者との面談も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修を受講しており、段階に応じた研修も実施されている。研修受講後は会議で伝達研修を行っている。法人内で自由参加の月1回のスキルアップ研修が行われている。また、ホーム内でスキルアップノートが作られ、ケアの向上にも活かされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府のグループホーム協議会に参加しており、研修や交流会を通して、意見交換を行っている。近隣のホームとも交流会を検討している。		

グループホームいでの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来てもらった際や法人のデイサービスやショートステイを利用された時に、ホームで他の入居者と一緒に過ごしてもらっている。センター方式を家族に記入してもらい等情報を集め、アセスメントし、馴染んでもらえるように工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で(後片付け、食器を洗う、洗濯物をたたむ、畑の水やり等)入居者、職員は一緒に行き、互いに助け合っている。入居者から昔の事を聞いたりしながら、会話を大切にしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム事前面接調査、センター方式等の暮らしの情報(私の家族シート、私の生活シート、私の暮しシート、心のシート)等を家族に書いてもらい情報を収集し入居時に希望を聞いている。また、日々の会話から希望を聞いて、職員間でも本人本位について話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、センター方式等にてアセスメントを実施している。全職員が心のシートを記載し、カンファレンスで話し合い、ケアプラン検討表(現状、考える視点、活動の目標、対応する方法など)を作成し、医師の意見も反映しながら本人に合った個別の介護計画が立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1回、介護計画は見直されており、状態に変化があった場合については、家族も交えてカンファレンスを実施し、その都度見直している。介護計画にそって毎月モニタリングも行い、現状に即した介護計画を作成している。		

グループホームいでの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診は、家族が基本だが、日々の状況を伝えるためにも出来るだけ同行している。馴染みの美容院への送迎や外出が困難になった入居者の希望に添えるように法人の施設内で、同窓会を開催されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望により、入居前にかかっていた主治医は継続されている。受診の際の同行や、家族受診の際の提供書(毎日の様子、健康状態)作成など安心な体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームの方針を説明している。入居者が重度化された場合については本人、家族の意向を確認し、職員間で話し合い、ケアしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った言葉掛けをしており、否定した言葉を使わない事を念頭に置き、職員同士でも注意し合っている。入浴については出来るだけ同性介助を行っている。また、個人情報は、鍵の掛かる所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課は決まっているが、入居者の意向に合わせて対応がなされており、自由な暮らしが支援されている。		

グループホームいでの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週、肉、魚は協同購入し大まかな献立を立て、入居者に相談して献立を決めている。職員と一緒に毎日スーパーへ買物に行き、食事の準備や後片付けを出来る方で行っている。食事も職員と一緒に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの意向を大切にされた支援がなされている。希望があれば毎日の入浴や、夕食後の入浴も可能である。また、同性介助を希望される入居者には、職員の勤務体制の工夫もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は水まき、金魚のエサ担当、掃除、後片付けなど役割を持ち、楽しみながら過ごしている。生活歴や趣味を生かし書道や、裁縫、コーラス、キーボードの演奏なども支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や天気の良い日には散歩に出掛け、地域のボランティアの方と交流されたり、日常の買物で往復2kmの道のりを歩いてスーパーに行っている。雨の日は広い併設施設を散歩している。またドライブに行ったりホームの広いベランダで日向ぼっこをしたり気晴らしもしている。毎月、喫茶店や外食にも行かれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	周りの環境と玄関を出るとすぐに階段で危険という事もあり、家族の同意を得て施錠している。外出希望の際は職員と一緒に出かけている。ケアハウスと接している扉は自由に入出入りできるように状況により開放されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自で抜き打ちに避難シュミレーションを実施しているが地域の方々の協力を得る働きかけは充分ではない。特養等との併設施設ではあるが、夜間の火災や災害時、地域の方々に協力を得ることは重要であると考えられている。	○	地域の方の参加を呼びかけ、一緒に訓練を行うなど、運営推進会議を通して働き掛けを行う事が望まれる。

グループホームいでの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食記録しており、水分はなるべく摂ってもらえるようにティータイムを3回もうけ、必要な方のみ記録をしている。一人ひとりの状態に合わせて、キザミやミキサー食を支援している。栄養バランスについては以前は法人栄養士に確認をしてもらっていた。	○	今後も定期的に栄養士によるチェックやアドバイスを受ける体制の検討が期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは四季折々を感じる眺めになっており、食卓には花を飾っている。ホーム内のちょっとしたスペースにはソファイスなどを置いて寛げる場も確保している。また、個人の作品は廊下をギャラリーにして飾り、広いテラスでは野菜や花を育てている。現在リビング内に安心して休める畳の空間なども検討されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでもらうように働き掛けており、入居前から、使っていた馴染みの飾り棚やテーブルセット、置物、写真などを持参されている。入居者の状況に合わせて今後も家族と相談しながらその方に合った居室づくりをしていく予定である。		